

若者自立支援ネットワークの充実には 何が必要か？

旭川市における就労支援を例として

北海学園大学 経済学部地域経済学科3年 中囿ゼミA

阿部豊・原弘樹・水野政哉・川辺健人
岡部慎・岩崎翔・平中秀智

項目

- * 序章 課題設定
- * 第1章 先行研究(宮本みち子『若者が無縁化する』)
- * 第2章 旭川における若年者労働の問題
- * 第3章 地域若者サポートステーション
- * 第4章 各支援機関の就労支援
- * 第5章 まとめ
- * 終章 提言

序章

課題設定

課題設定

弱い立場の若者が多数存在
彼らを社会参加・就労・自立に導くためには



現状
分析

- * 地域の中で就労支援機関が果たす役割と課題
- * 地域内での支援機関のネットワークの構築の必要性

第1章 先行研究

弱い立場の若者が生まれる背景

高度経済成長期の日本

- 家庭・学校・企業が三位一体となった日本型社会構造により、子供の成育環境の就業を保障



2000年代の日本

- グローバル経済競争とIT化により不安定雇用社会へと転換した



恵まれた条件を持たない若者に大きなダメージ

- 家庭・学校・社会・国家が、独特の連携によって、若者の自立をサポートすべきである。
→しかし日本の社会保障制度は、高齢者が中心で、現役世代および子供や若者に対し手薄だったため、もっと困難な状況にある若者を救済するすべをもっていない。

労働市場の二極化

将来が保障される仕事とそうでない仕事



将来が保障される仕事には能力が必要



能力は高い教育・訓練機会をもっているほうが有利



家庭の経済力・文化資本

1990～

子育て世代への公的援助の不足

子育て・養育費用の上昇

離婚率の増加(母子世帯の増加)

できちゃった婚

貧しい家庭に生まれ育つ子供の増加 子供の貧困は学校生活から脱落する原因になりうる

学校生活からの脱落の問題点

- ①教育水準が低い
- ②職業能力の未形成
- ③文化的資本が乏しい



世代を超え、貧困が続く
個人の問題だと思われがちだが
背景には社会構造の問題

若者の就労支援はどのようなものであるべきか

職業能力の開発

+

包括的な支援

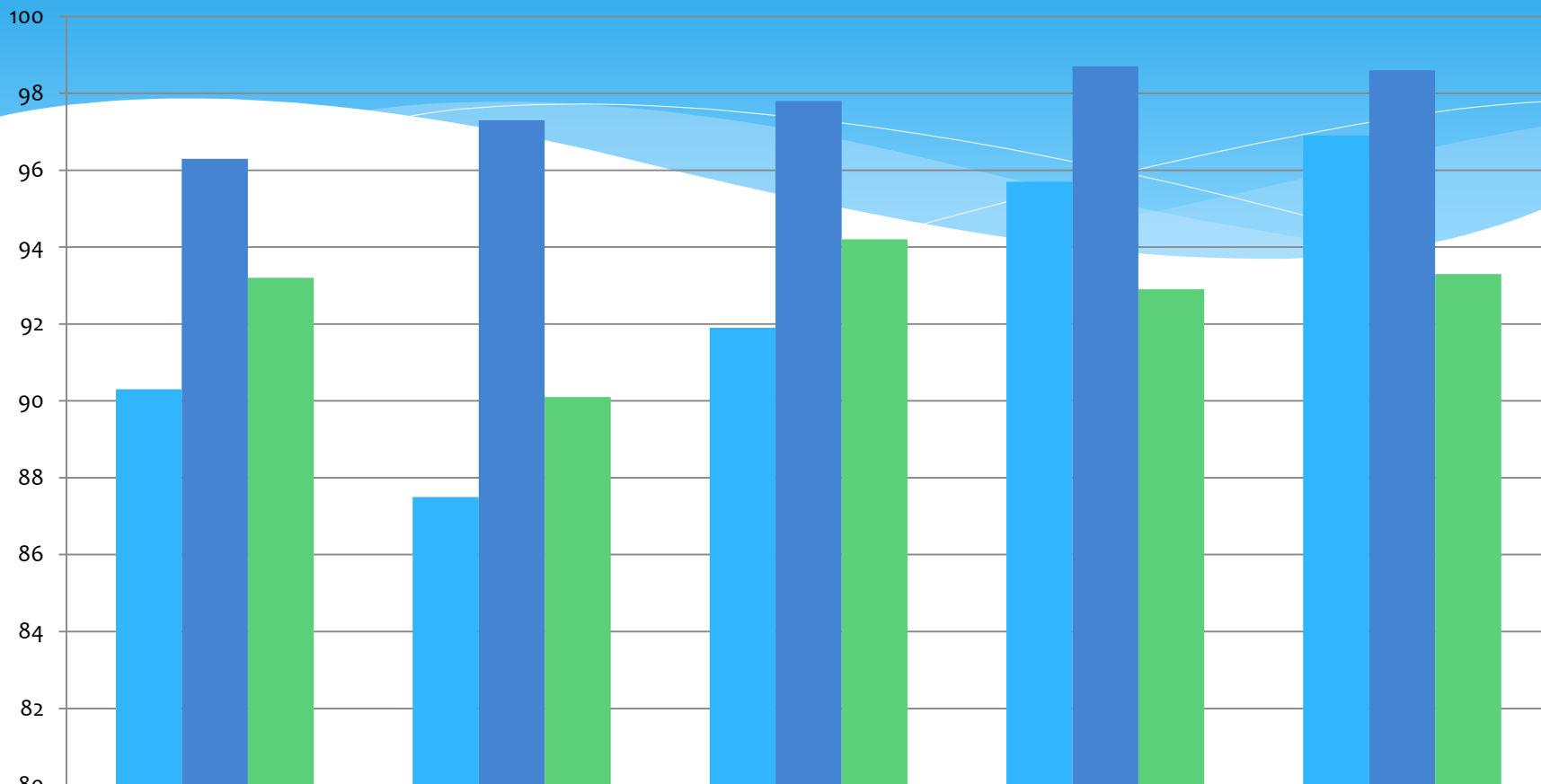
⇒これを実現化するのが

『若者自立支援ネットワーク』

第2章

旭川における若年者の労働状況

旭川市における就職内定率の推移



	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
■ 高校	90.3	87.5	91.9	95.7	96.9
■ 短大・高専	96.3	97.3	97.8	98.7	98.6
■ 大学	93.2	90.1	94.2	92.9	93.3

出典：旭川市役所資料

若年者の労働の問題点

～高校を例に～

[表1]

区分	卒業者	大学進学	短大進学	専修各種 (予備校 除く)進学	計	進学率
高校14校	2,958	1,000	199	733	1,932	65.3%

[表2]

区分	卒業者数	就職希望 者数	就職決定者の状況				就職率
			市内	市外	道外	計	
高校14校	2,958	717	435	202	58	695	96.9%

まとめ

- * 卒業者数2,958人から進学者1,932人を引くと1,026人
そこから就職希望者717を引くと309人となる



就職できていない人が数字上に表れない
(一部に浪人等を含む)



この約300人に対しての就職支援が必要！

第3章

地域若者サポートステーション

1節 地域若者サポートステーション概要

- * 働くことに不安や悩みのある若者をサポートすることを目的として厚労省の事業により設置された就労支援機関、道内に8拠点
- * 対象者
15～39歳以下の若年無業者・その保護者を対象
- * 事業内容(旭川)
 - 相談支援事業
 - 学校連携推進事業

2節 サポステに来る若者の特徴

多様な問題を抱えている若者が多数

- ① メンタル面の問題
- ② 人間関係・コミュニケーション等の問題
- ③ 経済的な問題
- ④ 就労上の問題

就労先が無いわけではないが
これらの問題が複合的に絡み合い就労が困難に

3節 支援内容

- 相談支援

- * 専門の相談員による相談業務

- 活動支援

- * 居場所を意識した交流活動支援
- * 就労支援プログラム
- * ジョブトレーニング支援

主な相談内容

- * 仕事に就きたいけど、就いたら不安
- * 夢や希望を持ってない、イメージができない
- * 就労に向けてどうステップを踏んでいけばいいのか
- * 就労ができて、対人面の問題で仕事が続かない 等

4節 学校連携推進事業とは

- * 学校とサポステの連携により中退者・中退しそうな生徒卒業後の進路が未決定の生徒等の「孤立している」「その可能性のある」若者への支援を進めていく
- * 困難な状態を未然に防ぐ予防的な支援の展開
- * 社会と繋がり続ける切れ目ない支援の展開

工業高校定時制との連携の経緯

定時制高校には

- * コミュニケーションが苦手な生徒
- * 就労意識に乏しい生徒

等様々な支援を必要とする生徒が在籍



就労に向けた継続的な支援が必要
H23年9月サポステとの連携へ

支援内容

◆「サポステの時間」

月に2回サポステ職員が学校訪問し、

- * 生徒の就労等に関する相談
- * HR担任と生徒に関する面談
- * 就労体験への参加推奨

等により進路指導の充実を図る

利用者数：月平均2~3人

就労支援（履歴書書き、面接練習）の相談が大半

支援内容

◆就労体験

目的

- * 就労の意思があっても機会に恵まれなかった
- * 自信がなく就労に踏み出せない

といった生徒がサポステの助言を受け、サポステ連携企業等で就労体験

在学中や卒業後の就労意欲の向上を図る

体験具体例

- 短期(1日、4～5時間)
 - * 福祉法人の引っ越し作業
 - * 小学校や住宅の除雪・草刈り作業

- 長期(4か月間、週4～5時間程度)
 - * 国立青少年教育施設での清掃作業

生徒への個別支援例

- ◆ 就労意欲が湧かない生徒の場合
 - * 学校及びサポステ事務所において意欲が湧かない悩みについて相談
 - * HR担任及び保護者との面談
 - * 生徒と情報誌等から一緒に情報収集及び検討

連携成果

- * 生徒が働くことの楽しさを学び、就労意欲が高まりアルバイトを含む有職率が上昇
- * サポステ等の外部とのつながりを通して、生徒への就労支援の充実
- * 学校と就労支援機関との連携強化

定時制工業高校生の 各年度のアルバイトの有職率

	5月	8月	11月	2月
H22	45.9	52.6	56.3	56.3
H23	50.5	58.7	58.5	60.6
H24	48.7	60.7	61.3	64.2
H25	59.6			

平成23年9月からサポステと連携を開始

出典：旭川工業高校資料

5節 サポステの役割

① 相談

ハローワークに訪れる前段階の若者を受け止める役割

② アウトリーチ

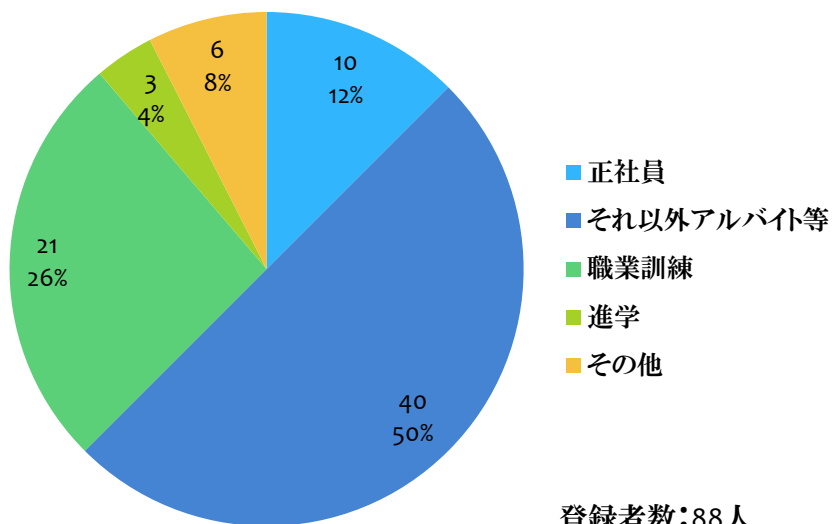
社会参加が困難な若者を外に出て受け止める役割

③ 若者支援ネットワークの窓口

ネットワークにより地域全体で一人一人を支えるチーム支援の形で個々の実情を酌んだ適切な支援を継続的に行う。その際、最初の窓口として若者とネットワークを繋ぎ適切な機関を紹介する役割

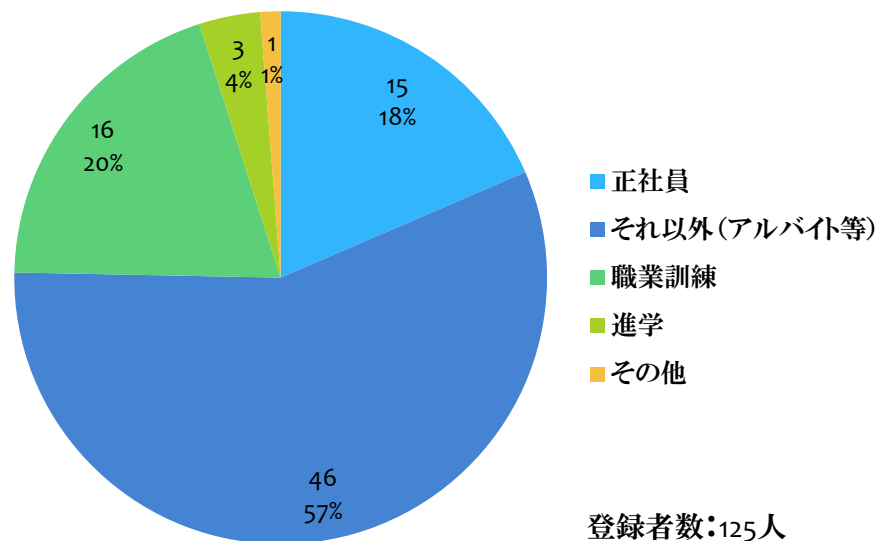
サポステ登録者の進路決定状況

H23内訳



登録者数:88人
進路決定者数:80人

H24内訳



登録者数:125人
進路決定者数:81人

出典:地域若者サポートステーション事業について

まとめ

◆ 評価点

- * 旭川工業高校定時制との連携充実
- * 職業訓練校への斡旋充実

◆ 出来ないこと

- * 就職の斡旋
- * 職業訓練

第4章

各支援機関の就労支援

ハローワーク・ポリテクセンター・技術専門学院

1節 ハローワーク・ジョブカフェの役割

◆ マッチング

- * 働く意欲のある若者を受け入れ就職先を斡旋する役割

実績 就職支援利用者140人 就職率71.4%

- * 求人情報の提供
- * 仕事探しにおける各種相談受付
- * ジョブサポーターによる学校訪問および相談

2節 ポリテクセンターの役割

◆ 職業訓練

* 職業に必要な能力を開発・向上させ、職業の安定を目指す役割

● 訓練期間 6か月～7か月

科名	定員	就職率(H24)
機械加工技術科	36	100%
CDA/CAM技術科	40	88.6%
金属加工科	80	93.8%
ビル管理科	120	78.9%
ビジネスワーク科	60	86.7%
電気設備科	15	新設

3節 旭川高等技術専門学院

◆ 職業訓練

* 職業に必要な能力を開発・向上させ、職業の安定を目指す役割

● 訓練期間 2年間

科名	定員	就職率(H24)
システム制御技術科	20	83.3%
自動車整備科	20	100%
印刷デザイン科	20	92.3%
色彩デザイン科	20	91.6%
建築技術科	20	62.5%
造形デザイン科	20	76.9%

4節 旭川市役所の役割

◆ 包括支援

- * 働く意欲のある若者を受け入れ様々な支援を行う役割
- * 学卒未就職者等人材育成事業
実績 平成24年度の参加15名→正規6名、非正規5名、契約2名、臨時1名
- * 就職支援セミナー
- * 企業説明会
- * 資格セミナーなど

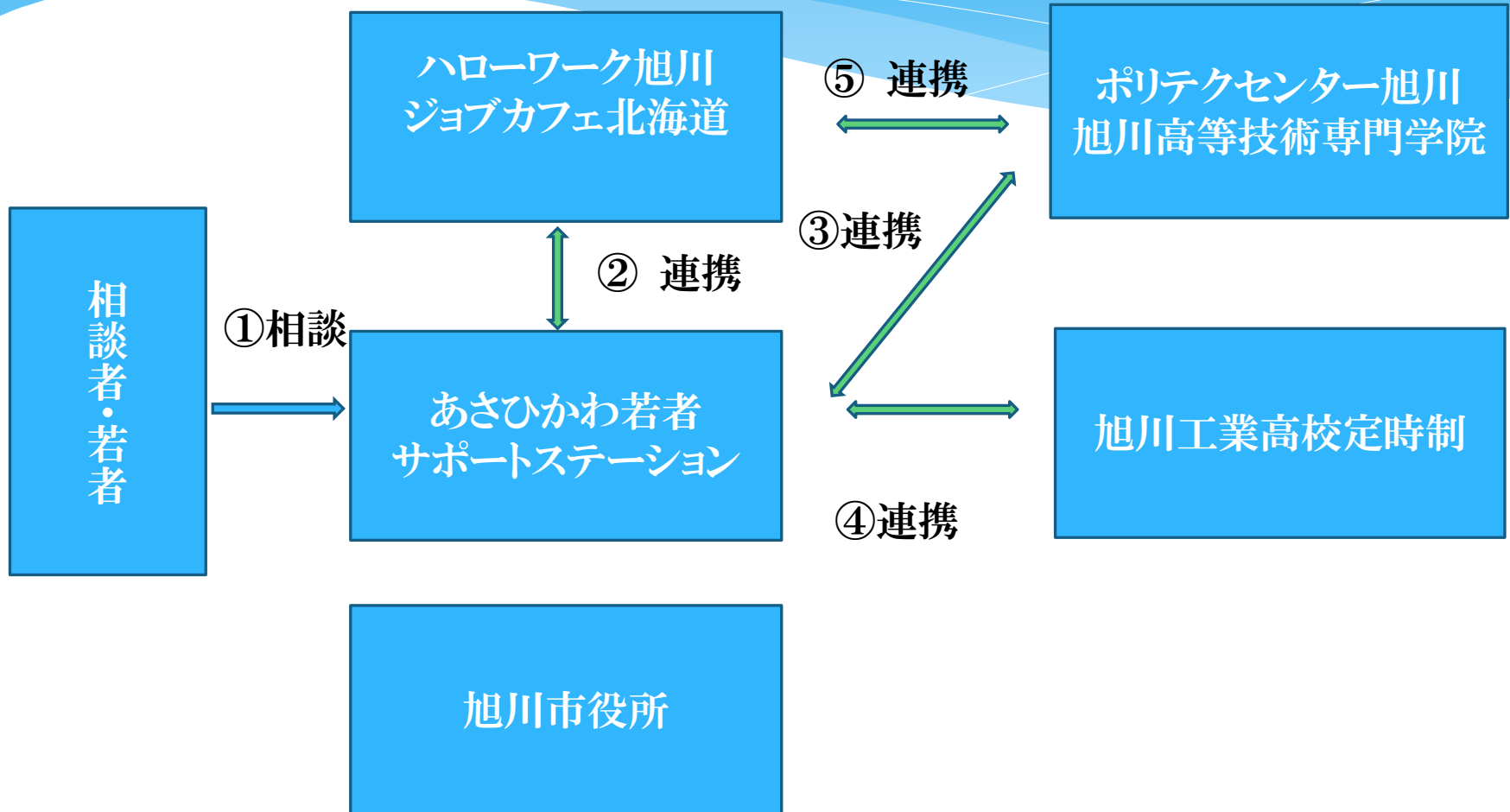
第5章 まとめ

旭川における就労支援

出典：各機関資料

支援機関	対象	内容	成果
サポートステーション	若年無業者 引きこもり	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援 ・就職セミナー 	正社員 18% アルバイト等 57% 職業訓練 20% 進学 4% その他 1%
ハローワーク旭川 ジョブカフェ北海道	学生や未就職者	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチング ・就職セミナー 	就職支援利用者 昨年140人 就職率71.4%
ポリテクセンター旭川	離職者 在職者 求職者	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援 ・職業訓練 	機械加工技術科 100% CAD/CAM技術科 88.6% 金属加工科 93.8% ビル管理科 78.9% ビジネスワーク科 86.7%
旭川高等技術専門学院	新規高卒者 転職者	<ul style="list-style-type: none"> ・職業訓練 ・資格取得 ・職業講座 	システム制御 83.3% 自動車整備課 100% 印刷デザイン科 92.3% 色彩デザイン科 91.6% 建築技術科 62.5% 造形デザイン科 76.9% (H24年)
旭川工業高校定時制	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・技術教育 ・職業講和やキャリアカウンセリング 	電気科 87.5% 建築科 62.5% 土木科 66.7% (H24年)
旭川市役所	高卒・大卒・短大卒 ・専門卒	就職セミナー インターン	15人中6人が正規、5人が正規以外、2人が契約、1人が臨時、1人が求職中(H24年)

旭川市若者自立支援ネットワークの現状



現在旭川のネットワークでできている連携

- ① サポステが若者や保護者に対し就職に関する相談支援
- ② サポステ→就労意欲が高くすぐに求職活動を行える若者を紹介
ハローワーク・ジョブカフェ→すぐに求職活動を行えない若者を紹介
- ③ サポステ→専門的技術を身に付けてから就職したい若者を紹介
ポリテク・技専→すぐに職業訓練を行えない若者を紹介
- ④ 学校連携
- ⑤ 就職情報の交換、職業講座の開催、就職に関する相談

終章

～提言～

今後への提言

- * 学校支援の充実

工業高校定時制以外の学校との連携

→学校訪問を行うハローワークのジョブサポーターと協力して孤立しそうな若者をサポステに誘導

- * 市役所との連携を構築

- * 地域全体での支援

例：地元企業の協力でのインターン先の拡大

参考資料

文献

- * 『若者が無縁化する』 2012年 宮本みち子
- * 『就労支援機関を利用する若者の社会への移行』 2008年 田澤実
HP
- * 旭川市労働基本調査(平成23年度)
- * 厚生労働省調査 (平成25年3月31日)
- * 北海道労働局調査(同上)
- * 旭川市役所(平成25年5月31日)

資料

- * 『地域若者サポートステーション事業について』
あさひかわ若者サポートステーション総括コーディネーター 佐藤友彦

謝辞

本発表を行うにあたってお世話になりました

- * 旭川若者サポートステーション
- * ハローワーク旭川
- * ジョブカフェ北海道
- * ポリテクセンター旭川
- * 旭川高等技術専門学院
- * 旭川工業高校
- * 旭川市役所